

(教養試験 警察官B No. 1)

日本の地方自治に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 地方公共団体の議会の議員は住民の直接選挙によって選出され、首長は議員の中から議員同士の選挙によって選出される。
2. 地方公共団体において、首長や議会の議員の任期は定められており、住民が首長の解職や議会の解散を求めることはできない。
3. 地方分権一括法では、国が本来果たすべき事務は国が行うこととされ、地方公共団体が国から事務を委託されて処理することはない。
4. 地方公共団体は、法律の範囲内で独自に条例や予算を作成することができる。
5. 平成の大合併と呼ばれる大規模な市町村合併が進められた結果、市町村数は大幅に減少し、2022年4月現在、全国の市町村数は約500となっている。

正答番号 4

(教養試験 警察官B No. 2)

次のア～ウはそれぞれ、16～19世紀のイギリスで起こった出来事に関する記述である。これらを古いものから順に並べているのはどれか。

- ア. 世界に先駆けて産業革命を達成し、他国の追随を許さない工業生産力を持ち、「世界の工場」と呼ばれるようになった。
- イ. ピューリタン革命と名誉革命の二つの革命を経て、議会在国政に発言力をもつ立憲君主政が確立した。
- ウ. 国王とローマ教皇との対立から、国王を首長とするイギリス国教会が設立された。

- 1. ア→イ→ウ
- 2. ア→ウ→イ
- 3. イ→ア→ウ
- 4. ウ→ア→イ
- 5. ウ→イ→ア

正答番号 5

(教養試験 警察官B No.3)

A～Cの3人が1年間に読んだ本の冊数は3人合わせて100冊であり、各人が読んだ冊数の比は、AとBが3：2、BとCが3：5であった。読んだ冊数が最も多い人と最も少ない人の冊数の差は何冊か。

1. 8冊
2. 10冊
3. 12冊
4. 14冊
5. 16冊

正答番号 5